



みらいこどもえん

6月号

2017年6月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子



積み重ね

初夏を感じる陽気が続いています。新年度の賑やかな園生活も、少しずつ変化を見せています。新入園児も進級児も新しい環境に入ることによる、不安や戸惑いを見せていました。お子さんによっては、まだまだ、全てが“安心”とは言えない様子も見られます。しかし、登園時は、保護者の方と離れることが辛くて、泣いていたお子さんも、保育時間の中では、自分のしたいことを見つけて、遊び出し、笑顔を見せることが多くなってきました。

園生活の中で、自分で好きなことを見つけて、やりたいことに夢中になれる。この見方で子どもたち一人一人の姿を捉えることが大切だと考えます。

少し長い期間で子ども達の成長を見ると、力をため込む時期と花が開く時期があるように思います。日々の生活の中で子ども達が自分の好きなことにコツコツ、モクモク、と取り組んでいる場面に出会います。それはため込んでいるのでしょう。また、ため込んだことが、急に花開き喜びに満ち溢れている姿を見ることもあります。「ほら、こんな、ことができるよ。」「ねえ、こんなことがあったんだよ。」と出来ることがうれしくて、話をするのが楽しくて、その喜びが伝わってくる場合があります。また、花開くことは、急に、突然にやってくるのではなく、蓄えの時期が必要です。蓄えの時期に経験することは、良いことばかりではなく、残念に思うこと、辛さを感じることも、理解されにくい時もあります。でも、小さな楽しさ、うれしさ、喜びを感じることを積み重ねていくことで、いつの間にか、力が備わってきていて、「あっ! 花が咲き出した」と感じ驚くことがあるのです。

一日の中でも、嫌だなと感じる時、楽しいと感じる時が混ざっています。日によっても様々です。楽しいことの割合が多くなっていくといいなと思います。子ども達の楽しさに満ち溢れる姿にたくさん出会えるよう一人一人を見つめ続けていきたいと思っています。

(長南)

—子ども同士の豊かな体験—

子どもにとって家族以外の他者との初めての出会いとなる(そうでない場合も)園生活。保護者の皆さんにとってはあまり好ましくない、叩いたり、噛み付いたり・・・。一見生産性の乏しいケンカに映るかもしれません。しかし、このストレスこそが、子どもにとってこの世に自分の思い通りにいかない存在があることを知る機会であり「思いやり」を育てる経験の場なのです。このような集団の中だからこそ、子ども達の人間関係の様々な有様を体験的に学ぶことが可能なのではないのでしょうか。「お互いを認め合える」という許容な園環境作り努めたいと考えます。先日、3歳児の保育室で、A子がB子の名札を一生懸命付けてあげている姿を見つけました、ピンが中々上手くいかず相当苦労している様子。そのうち襟首をつかみ、上着はねじれ、すごい形相のA子。一方B子は、文句ひとつ言わずに黙ってされるままじっと待っています。大人なら「もう、いいから」と思わず手で払いのけてしまいそうな場面でした。頑張りが実って、やっと、名札がつけられた時、二人のとびきりの笑顔が最高で、見守っていた私も思わず笑みと涙が・・・。

副園長 久富紀子

